

## アサクラサンショウの収穫適期は果実の断面で判断

アサクラサンショウは、養父市八鹿町朝倉が発祥地であるといわれ、県北部地域の特産品である。しかし収穫適期の幅が短いうえ、時期も年次変動が大きいことから、収穫適期的に把握する方法が求められていた。そこで、収穫適期を簡易に把握する方法を検討し、「種子内部の乳白化」や「内果皮の着色」で判断するのが良いことが分かった。

### 内 容

当センター内に栽植されている5年生（2008年時点）アサクラサンショウを用い、2008年と2009年に果実の横径と縦径を経時的に調査し、さらに果肉硬度と内果皮色、種子内部の乳白程度を調査した。果実硬度は5分間の煮沸後、破断応力を測定した。

果実の横径はS字曲線を描き肥大し、6月2日にほぼ最大に達した。種子内部は果径が最大になる前の5月28日頃から乳白化し始め、果実横径が最大に達すると、内果皮の褐色化が進んだ（データ略）。果実硬度は5月30日から6月2日までは緩やかに高まり、果実が最大径となった後の6月4日を境に急に硬化した（2008年）。

これらのことから、収穫適期は果実内部が乳白化し始め、内果皮が褐色化し始めるまでであり、内果

皮が黒くなる頃には果実が硬くなり、佃煮などの加工に不適になると考えられた。さらに、2008年と2009年で開花期が6日も異なり、種子内部の乳白化や内果皮の着色開始も満開後日数で3日程度のずれがあった。このため収穫適期は満開後日数や月日より、「種子内部の乳白化」や「内果皮の着色」で判断するのが良いと考えられた。なお、房内のバラツキは少ないので代表的な果実で判断する。

### 今後の方針

アサクラサンショウの収穫果の品質をそろえるため、収穫基準を作成する。

松浦 克彦（農産園芸部）

（前北部農技 農業・加工流通部）

（問い合わせ先 電話：0790 - 47 - 2424）



収穫直前のアサクラサンショウ

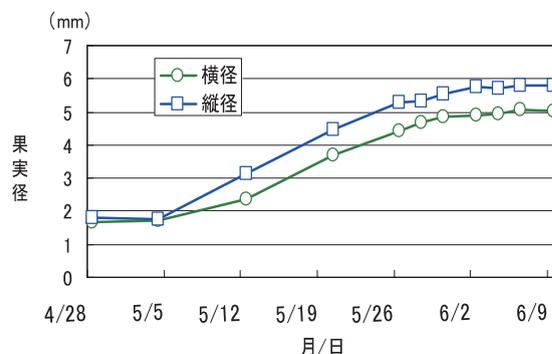


図1 果実径（横、縦）の推移（2009年）

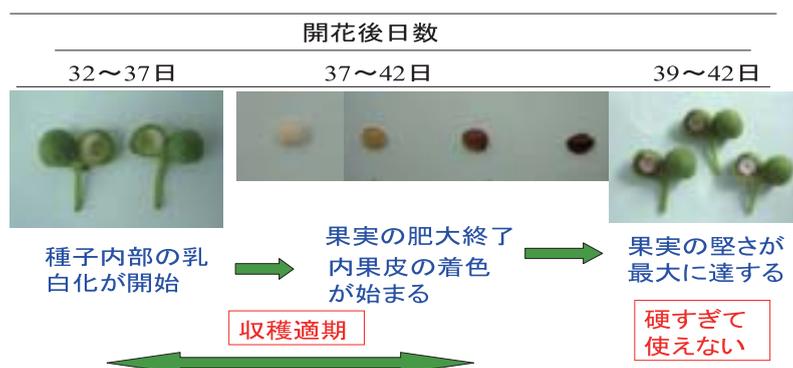


図2 開花後日数と果実の変化